

日時 平成 24 年 8 月 17 日（金） 午後 3 時～午後 5 時 10 分

場所 鎌倉市役所・講堂

議事

1. 確認事項

【事務局】第 1 回専門部会議事録については、確認頂き修正の要望はなかったため、これをもって確定でよろしいか。

【委員一同】異議なし。

【事務局】第 2 回専門部会議事録については修正要望があったため修正版を配布している。本日配布した議事録について再度修正要望がある場合は 8 月 24 日（金）までに事務局まで連絡を頂きたい。修正がなければこの時点で確定となるが、再度修正要望があった場合には、要望内容を確認して後日修正版をお送りする。

なお、条例施行規則第 4 条及び第 6 条では、「会議は公開とする」としているため、配布資料は全て情報公開の対象としたい。

そのため、議事録も原則公開となる。

議事録は作成次第、委員各位に確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

【委員一同】異議なし。

2. 議題

(1) 本日の部会の進め方

(事務局から資料の説明)

(2) 鎌倉地域に係るデータ整理について

(事務局から資料の説明)

【●●委員】以前にも説明があったかも知れないが、3 ページの渋滞状況とは市役所前通りは対象外であり、県道や国道のみが対象であるのか。

【事務局】以前にもお話ししたが、感知機という道路上にて車を感知する機械があるが、それは幹線道路のみに設置されている。市役所通りは市道であり、現状では設置されていない。幹線道路が真っ赤になっている 5 月 4 日の状況は、市道においても渋滞が起こっているとご理解頂きたい。

市道における感知機の設置は、今後とも警察に要望したいと考えている。

【●●委員】要は、県道、国道だけか。

【事務局】そうである。

【●●委員】7ページにあるバスの遅れについての遅延時間であるが、0分から10分までは理解できる。その次は11分から20分、21分から30分ではなく、11分から30分となっている。11分待つのか30分待つのか待っている側にとっては長く感じると思う。調査をした時点ではこれについての明確なデータはあるか。

【●●委員】便ごとに何分遅れたかという具体的なデータがある。それをどのように拾うのかという問題である為、このような形式でという事であればこのデータで拾えると思う。

【●●委員】11分から30分では、幅がありすぎるのではなかろうか。

【部会長】こちらの詳細化は可能であるか。

【事務局】可能である。

【●●委員】その方が分かり易いのではないか。

【部会長】青い箇所を2つに分けるのだろうか。

【●●委員】そうである。

【部会長】それをお願いしたい。他にはいかがだろう。

【●●委員】バスの遅れの状況の表にあるグリーンの箇所に、8月から12月まで1年間の総運行本数の記載があるが、444、555と月によって異なっている。どのような意味であるのか分かり兼ねる。

【●●委員】恐らく、1日の総運行本数である。データがある本数が一日当たり111本であり、8月は水曜日が4回、9月は5回。そして11月は恐らく祝日と重なり3回のみであったと解釈できる。

【●●委員】了解した。

もう一つ疑問である。京急や江ノ電では、混み合う時などは間引き運転を行うのか。

【●●委員】それは行わない。間引き運転は行わないが、間に合わなければ営業所にある代わりの車両を出している。その様に混み合う日は余分に車を用意してはいるが、全ての車両が出払ってしまうと、後は遅れ遅れで走行せざるを得ない。例えば午後3時台に3本来るはずが2本しか来ない。そして後の午後4時台に来た最初の1本が、実は3時台の車両であったと言う様に、順繰りに遅れが生じる事はある。しかし基本的には欠車は避けなければならぬ為、お客さまが居ても居なくても、遅らせながらその分の帳尻を合わせて運転をしている。

【●●委員】乗車人数が少ない場合、極端に言うと乗客は1人の場合もある。実際に私が1人で乗った経験もあり、勿体ないと思いながらも乗車させて頂いた。だが、それだけの台数があれば、当然混雑も多い。その様な乗車人数を加味した上で、車両台数の増減を調整する事はできないのか。

【●●委員】路線バスの性質から申し上げますとそれはできない。時刻・本数・運行区間を定め

て走行をするのが路線バスであり、お客様が居ようが居まいが走らせなければならないのが、路線バスの宿命であり義務である。

【●●委員】 了解した。

【●●委員】 2 ページに自動車交通量の実態があり、過年度との比較となっているが、これは全体のアベレージなのかそれとも何日かの特定した日なのか。

【事務局】 交通量は、例年 11 月の平日と休日に調査している。特に日にちは指定していないが、平日については水曜日、休日については日曜日、いずれも朝 7 時から夜 7 時までの 12 時間交通量調査を行い交差点ごとに集計したものである。

【●●委員】 毎年 11 月に行う調査も、この日にちのデータなのか。

【事務局】 例えば水曜日が祭日であると、その日は平日ではないため調査ができない。また、天候においても極端に雨が強い日は外している。なるべく近い日にちを予定しているが、必ずこの日というものでは無い。通常 11 月という枠の中で、平日 1 回、休日 1 回調査をしている。

【●●委員】 このデータを見ると、全て平日の交通量が多い。ということは、休日の交通対策に関して議論するのか、それとも特異日について議論するのか方向性が曖昧である。統計を見る限りでは、平日を重視して進める事や、休日のみを対象に議論をするのは如何なものかと思う。

【部会長】 非常に重要な意見である。

【事務局】 8 ページをご覧頂きたい。バスの遅延時間の変動という事を先ほど説明をさせて頂いた。平日の場合は午前 10 時や 12 時、午後 2 時にピークがあり、そのピークを過ぎると渋滞が解消されるという状況が平日のパターンである。ただし休日になると 10 時頃から一気に増加し、渋滞がだらだらと続いた上で、ようやく夕方に収まるという状況である。この様に平日と休日では、交通の流れが少々異なっている。ただ、あくまでも交通量が原因で渋滞が発生する訳では無い事を、この表でご理解頂けると思う。

【●●委員】 データとどう付き合っていくのかをしっかりと考えるべきである。平日は常時フラットに動いているが、休日はある時間帯渋滞しないと交通量は低くなるという事も明確にして対策を取るべきである。

【部会長】 今のお話の様に、変動を見る上でのバスの調査は非常に重要である。例えば右側のデータにある 5 月を見ると、さほど渋滞をしていない印象がある。しかし前の 5 ページを見れば、5 月 4 日のこの 1 日だけでも相当な遅れが生じている印象を受けるがこれは如何だろう。

【●●委員】 このデータは去年のものであるが、確かとても天候の悪い日が多く、1 日だけとても天気の良い日があったと記憶している。やはり大分天候に左右される為、ゴールデンウ

イークであれ天気が悪いと混まないイメージがある。昨年のゴールデンウィークの前半は全く駄目だという話もあり、恐らく晴れた特定の日に集中したのだろう。延べでいくと少ないが、日取りが1日あったという事だろうか。

【部会長】ここら辺の実態は聞かないと判らないため、他になければ、議案の(3)「鎌倉地域地区交通計画再評価」についてのご説明をして頂きたい。

(3) 鎌倉地域地区交通計画の再評価
(事務局から資料の説明)

【●●委員】15ページにあるロードプライシングであるが、この委員会で検討し、この計画を進めていく方向にあるのかどうか。また、これを駆使することにより果たして交通量が減るのか、そして最大の問題は、観光客と市民の生活のために使用されている道路を走行する人々が増加した状況に対しては、如何なる対策を取るかなどの問題点があると思う。このような問題を真剣に受け止め、このようにしようという熱心な計画が果たしてこの委員会にあるのか否かを伺いたい。そしてパーク&ライドについても問題である。実態調査をした結果、利用者へのアンケートは取っていないという報告が前回あったと思うが、もう少し効果的な方法で、市民も利用できる様な方向性が良いのではないかと考える。必ずしも駐車した人のみが乗ると言うのではなく、普通の人も利用できる様にしたらどうだろう。そして歩行者の問題である。私は深沢地域に住んでいるが、以前、道路交通業務の担当の方に伺った際に、モノレールの富士見町駅から大船駅へ行く跨線橋、つまり横須賀線を跨ぐ道路は県道である為、鎌倉市ではなかなか手を付け難いのだと返答を頂いた。しかし現在も相変わらず全く歩道は整備されていないままである。よって歩道はどの様になっているのかを、いま一度伺いたいと思う。

【事務局】歩道の整備箇所とは大船立体の事だろうか。

【●●委員】富士見町の駅から渡っている橋である。

【事務局】それは、腰越大船線の大船立体といい神奈川県藤沢土木事務所が施工を行っている。計画では、道路構造令に沿った形で両側に歩道を設置する予定である。

【●●委員】以前に伺った際、平成17年までに歩道を設置するという回答を頂いた。しかし平成17年にはガードレールが変わったのみであり歩道は設置されていない。

【事務局】震災があった事により、JRを跨ぐ上でもう少し強固なものにしなければならないという話になった。しかしこれに関しては藤沢土木事務所とJRとで協議をした中で一定の協議が整った様子であり、今後は進捗するだろう。

【●●委員】もう暫く、待てば良いのか。

【事務局】そうである。

【事務局】次に2点目のパーク&ライドについては、実際に利用者は増加している。市として

もなるべく皆さんに利用して頂きたいとPRをしているが、費用は費やしておらず交通事業者と駐車場設置者が出費してシステムが成り立っている。具体的には駐車料金だけでパスが2枚付いてくる。更に様々な付加価値が付き非常にお得である為、今後も利用者は増えるだろう。ただし、ふくちゃん号については、今後一般の方も利用できる様に交通事業者と検討する意向である。また、最初のロードプライシングについては先ほどご指摘があった様に様々な課題がある。この検討委員会の中でも議論して頂くが、まずは最初にできる事からやっぺいこうという事であり、最終的にはロードプライシングはどうするのかという事についても、皆さんでご議論して頂き進めて行きたいと思う。

【●●委員】日本国内においてロードプライシングを検討し、実際に実行している地域はあるのか。

【部会長】一般道ではまだ無い。

【●●委員】以前に見たシンガポールのロードプライシングでは、事前にチケットを購入して払うシステムであった。

【部会長】それはかなり以前であり、今はもう電子化となっている。

【●●委員】20の施策の再評価という事だが、今、ロードプライシングの話題が出たが、これは平成7年以降に評価して、実際には平成8年ぐらいから検討している施策である。それをいつまで再評価するのか。実施できる、できないは現状である程度目安が付いているため、できる部分については更に拡充し、出来る所から先に進む事が大事ではないか。平成7年や8年とは状況が随分と違っている。後から追加されている部分もあるが、実際には実施すら出来ず、当然現在も稼動していないものもある。このロードプライシングもそうである。限られた時間の中で検討しなければならない事が多いが、まず現状ではこのような事が実施でき、それを更に拡充を図る。その中で、更に良い案が出てくるような体制を築く方が大切ではないか。

【部会長】今のご意見は基本スタンスに関わる部分かと思うが、皆さんのご意見はどうだろうか。

【●●委員】同感である。私はこの間から参加している為よく分からない部分もあったが、なるほどその様な事があるのかと思った。やはりメリハリを付けて、止めるという決断も含めた方が良いのではないか。

【●●委員】それも良いが「やはりこうあるべきだ」「将来はこうしたい」と言うものは残しながら、現実的に今できる事は何であるのかを議論した方が良い。そしてロードプライシングは、もう難しいだろうと全く無くしてしまうのではなく、将来はその様な事も考えられるのだという程度の可能性は残した方が良いのではないか。ただ、具体的な問題よりも課題としてあることは事実である。そしてこれは来年になるかならないかの瀬戸際であるが、世界遺産の問題においてもそうである。ここにも記載がある様に、問題提起ができるのか、できないのかであるが、特に世界遺産は鎌倉市だけではなく、近隣市にも点在する為そこを結ぶ形

となる。世界遺産登録の調査が9月に予定されている。その際に「この交通状態では」と言われたい様にならないし、それに対してどうするのかというのも、1つの契機になるのではないかと。今から斬新なアイデアが出てくるのだろうかという思いは無い訳ではないが難しい事ではある。

【●●委員】まず、出来る所から前に進み将来的な課題としてこの様な事も考えるべきだということ、当然あって然るべきである。ただし、そこにロードプライシングを入れるかどうかは問題ではある。出来る所から行っていくという考え方でいくと、歩道の整備という問題がある。北鎌倉から建長寺に向かって歩くと歩道は非常に狭くて危険である。この様な問題を取り込み、どの様にしたら出来るのかも考えなくてはならない。しかしあまりにも間口を広げ過ぎ、食い散らかし状態になってしまっても仕方がない為、まずは、出来る所から行うべきである。世界遺産に絡めて重要な部分から行うのであれば、歩道が狭いと言う事だろう。この歩道については長期的な課題となっているが、決して長期的な課題では無いと考える。なるべく、1日も早くどの様にしたら出来るのかを検討せねばならないだろう。しかしそれでは間口が広すぎる為、やはり先ずは出来る所から行うべきである。

【事務局】都市計画道路については、現在、都市計画課にて都市計画道路の見直しをしているため具体的にお示しできるかと思う。今後はパブリックコメント等を取り、皆さんからご意見を頂戴した上で、見直しや廃止などを検討することになる。

【●●委員】交通について検討する上で非常に重要な問題であるため、分かったら教えてもらいたい。

【部会長】●●委員がおっしゃった、出来る所からと言うのは歩道を広げるという意味か。

【●●委員】いや、今我々が行っているのは歩道の件では無い。

【部会長】16ページに歩道が狭いと記載がある。

【●●委員】北鎌倉などは、歩道を拡幅しなければ危険な状況であると言う事である。

【部会長】それは同感だが、出来る所からやるべきだと言うのはどうゆうことか。

【●●委員】出来る所からとは、まず問題を絞り込むと言う事であり、すでに実施をされた状態で今後も継続が可能であり、拡充の検討ができる様な事柄について、今後どの様な事ができるのかという事ことに問題を絞り込みたいという意見である。それとは別に、急いで解決しなければいけない問題として、歩道の検討があるという意味である。

【部会長】別問題であるか。

【●●委員】問題を絞り込まずに2つにした。

【●●委員】子どもの頃から北鎌倉からの通りは、トンネルから先は歩道がきちんとあったが、そこに至るまでは学生や観光客が大勢通る。円覚寺の前を通っている南口に1本並行している道があるが、そちらにも歩行者が分散して人が流れる様に検討したらどうか。また、世界

遺産は今後の問題であり実現するか分かり兼ねるが、実現した際には世界遺産によって統一されている京都を参考にするのは如何だろう。京都では世界遺産巡りというバスがあり、一日 800 円程度で乗り放題となっている。鎌倉でもその様なバスを検討しては如何だろう。

【●●委員】先ほどの交通量の問題における特異日についてだが、正月三が日は混んでいた。その他にも鎌倉まつりがかなり混んでいる。

【●●委員】パレードを行う箇所のみ止めている。

【●●委員】それに加え花火の時は警察もかなり敬遠する。迷惑かも知れないが人が大勢集まるバス運行から知恵を出す事も、一つのアナウンス効果があるのではないか。

【●●委員】正直に申し上げますと、私どもは正月と同じ様に規制する方が有難い。規制された方がきちんと走行でき、規制が解除されるとどうにもならない状態である。ロードプライシングなのか流入規制なのかはどちらでも良いが、やはり車は無い方が良い。しかし、当日になってみないと混雑するかどうか判らないという事が鎌倉の特異日の特徴であり、それが一番規制を難しくしている原因である。紫陽花もいつ咲くのか確実な予測がつかず、突然綺麗に咲いてしまうと去年と全く異なった日が特異日となる。また紅葉も然り。風光明媚な部分で観光客が来る事は非常に鎌倉の良い特徴である。しかし、天候や季候などの予測は非常に難しい。例えばゴールデンウィークは全て止めてしまう、6月を全て止めてしまうなど、オーバーではあるがその様な話をしない限り、効果的に特異日の渋滞を抑制することは不可能である。また事業者としても、当日、今日は特異日になりそうだからと、急きょ交通規制を掛けると言われても対応できない。例えば世界遺産登録が決まり、特定の日を決めて止める事は可能かも知れないが、観光客の抑制の為に道路を押さえ込む事は非常に難しいだろう。もちろん、駄目ならばそれなりの走行をするが、鎌倉という地域は物理的にバスが通行出来ない箇所ばかりである為、迂回運行は非常に難しい。金沢鎌倉線においても正月は特別狭い箇所を、誘導員を立てて走行している。これは恐らく正月だからこそご理解を頂けるのであり、四六時中走行すれば恐らく沿道の方からも文句が出るだろう。故に、抜け道の無い箇所において公共交通を検討する際は、代替の道路を十分に検討した上で沿道の方々のコンセンサスを得ながら行わなければならない。これは私どもにご質問という形で投げかけられた部分である。バス事業者としては、バスを走行させる事は多少なりとも沿道の方々に負担を掛けている。よって新たに走行させる事は難しい部分がある。また、今おっしゃった歩行者の問題も然り。現在、幹線道路を歩行している方を、幹線道路は危ないからと世界遺産巡りの遊歩道コースの様な他の行路に振り分ければ、その生活道路の沿道居住者からは苦情が出るだろう。その辺りの話は別の市で聞いたことがある。やはり歩行者が歩けばゴミも散らかり声が騒がしいなどの問題が発生する為、沿道の方々のコンセンサスが非常に難しいと思われる。それはロードプライシングにおいても同じ事である。その辺りがなかなか難しい所である。

【部会長】15、16 ページの扱いについては、各委員の間で様々なご議論、ご意見の相違もあると思うが、その前に 14 ページをご覧頂きたい。これは個別の施策の場合の方向性を示したも

ので、前回、前々回の議論を一ページにまとめて頂いたものと理解している。上に2つ大きな字で課題が書いてあるが、全部で3つの覧に分かれており、歩行者と公共交通がいまだに課題となっている。先ほど「特異日と言われても一体いつなのか分かり兼ねる」と言う非常に現実的で重要な課題のご指摘を頂いた。しかしそれはそれとして、対象は特異日では無いのかと言う状況もあり、それが世界遺産であったりという事を今後この検討委員会にて議論したらどうだろうという提案があった。その他にも非常に重要なご指摘があった。下の方の青い箇所、高齢者や自転車交通については確かに重要であるが、絞り込むと言う観点からは、この委員会では少々扱えないのではないのかと言う定義がある。これについてのご意見を頂きたい。また、この方向で良いのか、あるいはもう少し増やすべきなのか減らすべきなのか。また、下から上に上げるものがあるかなどである。

【●●委員】特異日はその年によって違うが、はたして年間何日くらいあるのだろうか。特異日以外は土日であっても全くどうにもならない状況では無いため、年間何日ほどあるのかによってもその方向性も変わるのではないか。

【事務局】今年24年度の土日祭日は115日であり、日曜祭日は68日である。今、特異日の話題が上がったが、本年度、市でVICSデータを購入予定であり、年間を通して一定の条件を決めれば、例えば鶴岡八幡宮から金沢鎌倉線では渋滞する日が何日あったというデータが出せる。今後、その様なデータを提示した上で、また改めて特異日はどうなのだという事をご議論頂きたい。ある程度一定の条件を決めた後にデータを絞り込みたい。

【部会長】皆さんの実感としてはどうだろうか。生活を送る中で、そのとんでもない状況はだいたい年間何日ほどとお考えか。

【●●委員】個人的には年間10日ほどではないかと考える。鎌倉は観光地である為、市民がもう少し観光客への理解などを示す事が大切ではないか。ただ文句を言うだけでは無く、やはり受け入れる気持ちを育てていくべきであり、世界遺産ともなれば尚更である。一週間続けて混雑する訳では無いのだから、多少の事は致し方無いと諦めるのでは無く、あくまでそれを受け入れる気持ちが大切ではないか。

【部会長】観光客が多くとも、受け入れる側では文句を言わないという事か。

【●●委員】鎌倉は歩く町というフレーズを以前より幾度か申し上げている。それを宣伝して徐々に浸透させる事により、「鎌倉は絶対歩いて観光しよう」や、「世界遺産を見よう」など、その様な気持ちを皆さんに抱いて頂きたい。そしてやはり観光は大切な要素である為、市民の受け入れる気持ちを育てたいと考える。

【●●委員】日曜日の金沢鎌倉線が気になる。日曜日にハイランドから大塔宮方面に行くには、交差点に規制が掛かっているため逗子方面から回らなければ行くことができない。果たしてその状況の特異日とするのかどうかであり、特異日の定義をどうするのかという問題である。以前、今小路の歩行者優先道路の会議に参加したが、経済特区という手立ては無いものだろうか。例えば特異日をどう設置するのか。その様な時には東京や神奈川から来た車は入れな

いという規制が本当に可能なのかという事も考えて頂きたい。そう容易な事では無いが、一つの知恵としてお考え頂きたい。

【部会長】特異日については具体的な日数を調べて頂きたい。平成7年度から現在まで休日を前提とした検討を行ってきたが、それをある意味絞り込むと言う提案がある。確かにその特異日が年に一度や二度であれば、それは致し方が無いと言う結論とする事も考えられるが、皆さんの実感としては、少なくとも問題にするべき日数はあるとお考えがあるのか。さもないければこの委員会を開く意義があるのだろうかと言う問題になるが、それについては如何だろう。

【●●委員】バス事業者としての見解であるが、バスが出払ってしまいどうしようもない様な状態が特異日であると考え、具体的には正月の規制明けから学校が始まるまでの3、4、5、6日の辺り。天気にもよるがこの時期に発生し易い。ゴールデンウィーク中の天候の良い日もそうである。また134号は夏であれば常時混みあっている。6月の紫陽花が綺麗な時期には、天候に恵まれた土曜日や日曜日だろう。秋の紅葉のシーズンは混みあう日数が一度や二度のみである為、年間を通して切羽詰まる様な状況になるのは、10日有るか無いか位だと思う。ただし、いわゆる特異日をどう判断するのかという問題はある。委員の先生方のお話を聞くと捉え方に違いがあるが、それは恐らくお住まいの地域が異なるからだろう。例えば2ページから3ページにかけて見ると、市の担当者からはあちこち分散していると言うお話であったが、渋滞の始まる箇所は決まっている。これを見て頂いても深沢方面から来て長谷観音の交差点と八幡宮の交差点で詰まり始める。これは特異日であろうと無かろうと、いずれもここがスタート地点である。最後まで消えない箇所はここである。夏になると134号は動かなくなる。特異日とは市内全域が動かなくなる状況であるため、特異日の対象とは、地域全域における渋滞の解消と言う問題に繋がると思われる。年間における特異日の受け止め方に相違があるのかも知れないが、それを甘んじて受ければ、問題の方向性は特異日の解消ではなく、非常に渋滞や混雑が起き易い箇所への対策をどうするのかということになってくるのではないかと。また、次の考え方として議論となっている流入交通であるが、市外からの流入や地域外からの流入を抑えれば良いと言う意見や、市内の生活交通においても、ある程度の抑制を図るべきであるなど、様々な意見や考え方がある。市外からの流入を防ぐのであれば、物理的に入れないようにする。ロードプライシングのみが流入抑制の手段では無い為、今おっしゃった様な、ここからは市内に入れないと言う箇所の時間帯を区切り押さえてしまうのもひとつの手である。その様な方法もある為、特異日の対策よりは、状況が酷い箇所への対策をどうするのかというだけでも、恐らく市民の感じ方も変わってくるのではないかと。また、特異日ではなくネックとなっている箇所をどうするのかという方が効果的ではないかと。そうしなければ、この方向性からでは、20の施策の再評価が良いのか悪いのかと言う議論もあったが、具体的に繋がらない施策のみをやる事になってしまう。例えば予算についてもできる事からやるとあるが、できる事からやるとは様々な捉え方があるため、20の施策がある中で最も簡単なものから取り組む事が良いのか。または、今は何をすべきなのかと言う観点から、一点豪華主義で全ての費用を注ぎ込んでも歩道を拡幅する方が良いのか。その様な事も議論をした方が良いのではないかと。

【部会長】今のお話を伺うと、少なくともこの委員会を行う意義があるとのことご意見であると承った。

【●●委員】ただ、特異日にこだわる必要は無いのではないか。

【部会長】止める・動かすなどは方法論である為、それらは後ほど議論させて頂く。今の14ページの話では、日にちについてのみ記載してあるが、今のご意見では更に場所についても、やらなければならない特定の場所がある為、そこを決めるべきではないかと言う指摘であった。上記は歩行者についての記載であるが、特定の場所は特に無いが、どこであっても歩道は広い方が良い。2番目は主に渋滞対策である。渋滞対策では特定の道路や場所が判っているため、そこをやるべきではないかというご意見である。2番目にその様なニュアンスを付け加えるという事についてはよろしいだろうか。

【●●委員】良いと思う。特異日は何日ほどあるのかと言う質問は、その様な意味のものである。よって特異日にこだわるのでは無く、渋滞する箇所をどの様に解消していくのかが重要だと考える。

【部会長】皆さんのご賛同を頂ければ、2番目についてはその様に変える事でよろしいか。また、特異日というのは存在しそうだが、特異日と特定箇所は並列するか、それとも特異日という考えはやめて特定箇所のみとした方がよいか。

【●●委員】分析した結果、1つのアピールの言葉として、残した方が良いのではないか。早期解消はあくまで渋滞する箇所である。

【部会長】ではその様なニュアンスで、よろしく願います。

それでは今訂正して頂いた上で14ページを見て頂くと、今日の議論を踏まえて9月27日に検討委員会が開催され、ここで鎌倉地域交通計画の今後の方向性のご議論を頂くが、恐らくそこでわれわれの提案は14ページの様なものになると思う。これまでこの専門部会による3回に及ぶ議論のアウトプットは、この14ページの様なものだと思う。よって、只今訂正して頂いた上で14ページを27日にご提案したいと思うがよろしいか。

【委員一同】異議なし。

【部会長】皆さまのご賛同を得た事で、ここまではその様にさせて頂く事とする。また、15、16ページについては全く議論されていない為、きちんと議論せねばならないと言う面と、過去を振り返る事はせず前進するべきであると言った二極のご意見もあったが、これについてはどうするべきだろうか。事務局としては15、16ページにおいても、専門部会にてこの様な評価をしたと言う報告をするべきであると考えているのか。

【事務局】一応15、16ページは整理をしたが、皆さんのご了承が得られなければ報告は難しいと思われる。そのため、15、16ページは委員会の中で諮って、またご意見を頂く事も考えられる。

【部会長】専門部会としては、統一的な評価は下していないので今後議論をする。

もう一つの議題がある為、議案の（４）「アンケート調査」についてのご説明をお願いします。

（４）アンケート調査について

（事務局から資料の説明）

【●●委員】パーク＆ライドのアンケートに、鎌倉地区と記載があった。最初これは何であろうと疑問に思ったが、要するに鎌倉地区の説明であった。アンケートには、鎌倉地域とはこの辺を示すのだと、もう少し分かり易い説明があると良いと思う。星印のみでは何を示しているのか分かり兼ねる。

【部会長】少々目立ち過ぎの様である。

【●●委員】同感である。最後に鎌倉地域とは、ここを示すのだとスムーズな記載があった方が良い。

【部会長】カッコをして入れるのか。

【●●委員】そうではないが、記載する場所を考えてもらいたい。

【●●委員】平成7年当時との比較は大いに結構であるが、ニュートラルに見ると平成7年当時において、交通問題がある事を前提としている様に思える。この設問では問題点が沢山あり、さもそれを掘り起こしたいのだと見て取れる。耐えられるよ、これは仕方の無い事なのだよと考える方にまで、何か問題があるというところにマルを付けさせようとしているように感じる。私は平成7年当時を把握していないが、この設問を見た限りでは必ずどこかにマルを付けなければならないと言う意識に駆られる。例えば問1の項目では「即刻手を打つべきである」という考え方の人が、下の問題にマルを付けるのは良い。しかし「許容できる程度である」という考え方の人が、問2の「特に交通問題が深刻に感じるのはいつか」との設問に、さほどの深刻さは感じていないのにマルを付けなければいけないというのは国語的にもおかしな設問ではないか。こういった部会で作るアンケートには、時折このような設問を見かける。問題が沢山あるのだと言う回答を、無意識に望んでいる様な設問になっているのではないかと感じる。一方で問7の設問と同様に、この変化の比較は確かに重要な事である。その辺りの赤字部分も含めて、もう一度整合性を取って頂きたい。

【部会長】確かにその辺りは、平成7年当時に参加していた者としての反省点であり、おっしゃる通り、中立的な設問になっていないようである。その部分については検討して頂き、修正できる箇所は直して頂きたい。

【●●委員】問1で「深刻で耐えがたい」と2番目に「深刻だけれど許容できる」とあるが、そこへもう一文付け加えるべきではないか。下の「やや深刻である」深刻の度合いによって分け、また「他都市でも同じなので、許容できる」や「何らかの手を打ってほしい」も2つに分けた方が良いのではないか。その方が上手く下に繋がると思う。

【部会長】ではそれについては要検討とする。

【●●委員】今の話を伺い、鎌倉まつりの主催者として問2の設問に対する発言であるが、これが渋滞を引き起こしている原因ではないと考える。先ほどの特異日のお話でもあったが、昔は特異日とは、正月三が日と一週間ほど。そして5月の連休とたまの3連休くらいではないかと意識している。しかし、こここのところ生活様式も変化し、週休2日制や国の方針で祝日を月曜日とする3連休も多くなり、特異日が非常に増えていると思われる。海水浴シーズンは海で事業をやられている方もおられるため、具体的には1月や2月といった表示のみで良いのではないかと。

【●●委員】1月が初詣で混む、8月が鎌倉まつりで混む、などの考え方にはせず、月で考える人は1月から12月でいつが混んでいるのか。もしも特定のイベントで混んでいると感じるのであれば、上と下は別の回答をするのはどうだろう。例えば、海水浴や紅葉など。紅葉のシーズンは混んでいる、海水浴のシーズンは混んでいる、初詣は混んでいるなど、時期的にはいつ頃なのか、何か特定のイベントにおいて混んでいるという印象があるのかなど、その様に分けて考えれば時期だけでなく特異日を特定できるのではないかと。

【部会長】2人から非常に貴重なご意見を頂いたので参考にしたいと思う。

【●●委員】平成7年のアンケート調査を基に作成された様だが、敢えて平成7年と比較する必要は無いのではないかと。当時とは状況も全く異なる。竹内市長の時は平成7年であり、その際もロードプライシングというテーマはあった。先ほど●●委員も誘導しているのではないかとおっしゃったが、例えば問7に「乗り入れや走行を規制することにより、快適な都市を造ろうとする」と設問にあるが、なぜこの様な問い掛けをするのか疑問である。同様に問7や問8も乗り入れ規制の設問ばかりであり、その後問9、10、11までも乗り入れ規制についての問いである。この協議会で乗り入れ規制をした方が良いという結論に達した後、それに対する調査を行うのであればこの様な設問も領けるが、ただ、現在は未だこの様な状況では無く、一体どの様にすれば交通の緩和ができるのか、良い形になるのかを考える段階であり、この様な問い方には違和感がある。●●さんが誘導しているようだと感じた事はこの様な所ではないか。また、議事録を最初から読み返したが、アンケート調査について、この様な形で調査をしようという議論をした記憶が無い。今日の会議においても徐々に問題点は絞られ明確になってきているが、問題が絞られ審議をした上で調査を行うべきではないか。まだまだ議論しなければならない事もあり、後からこれについても調査をしようとするれば二度手間になる。調査項目や質問の仕方について、もう少し協議し、検討しながら目的と必要性を十分に加味した上で、調査の項目を討議すべきではないか。

【部会長】第1回の検討委員会のときからアンケートの話はあり、問7から問11の乗り入れ規制に関する設問を含めるか否かの問題についても、事務局から説明があったような記憶がある。恐らく説明した際に異論が無かった為、事務局は了承されたと解釈し、問7から問11が含まれているのではないだろうか。アンケート全体の構造についてのご意見を頂きたい。

【●●委員】このアンケートはこれで良いのではないかと。問題は2つあり、1つは、「こういう考えがあるとした場合」と断りがある。しかしいくら「あるとした場合」との記載があれ、

やはり先入観を与えてしまうだろうと言う事は理解できる。それでなければ、その他の「具体的に反対である」の(2)で良いのではないか。この様な設問に対しては、賛成も反対もかなり激しく意見が分かれる。この委員会においてももう少し深く検討をするのであれば、この様なアンケートにおいて市民の意見を軽く聞く方が抛り所になり、「もうこんなのはやめよう」と言う結果にもなり兼ねないが、逆に「結構賛成が多いため、深く検討しよう」という結果になる可能性もある。その様な意味においても入れておくべきであると思う。

【部会長】 問7から問11においてか。

【●●委員】 「そういった考えがあるとした場合」と記載がある。ここで聞かないとニワトリか卵かみたいなので、この委員会にて検討してその後また同じものを出されるのであれば、早めに聞いた方が良い。検討するに至り市民の反対が非常に多くあれば、検討から外さなければならぬ為、早い段階において分かった方が良いと思われる。

【部会長】 皆さんのご意見を頂きたい。

【●●委員】 アンケートの設問の仕方であるが、具体的な選択肢があり、その中から選択する方式が楽ではないか。市民の立場として考えれば、このアンケートを渡された場合では、やはり選択肢があった方が「そうか、この様な考え方もあるのか」と思い、回答がし易いのではないか。また、アンケートの対象者はどの様にお考えの上で、このアンケートを実施するのか。

【事務局】 現段階では1,000通用意し、その6割の600通を鎌倉地域に、残りをその他、腰越、深沢、玉縄、大船にて100通ずつ配分しようと考えている。そして対象者についてはコンピューターでランダムに選ぶ為、こちらでは指定をしない。基本的にはこの中に依頼文をもう少しきちんと書き、アンケートの趣旨なども明記した上で市民の方をお願いをしたい。

【●●委員】 という事はアットランダムに封書で送るのか。

【事務局】 そうである。

【●●委員】 誘導質問の問題もある中、前回との比較も見たいとなると、問7で「乗り入れを制限し、快適な都市を造ろうとする考え方」と言う設問が一番の誘導になるのではないか。地域全般を通しての設問の中において、鎌倉市内の道路交通問題が出てくるが、それを「鎌倉地域の道路交通問題を解決する方策として、鎌倉地域への自動車の流入を制限しようとする場合」という問いにすればどうか。あくまでこれをすれば快適になるのかという事ではなく、解決策としてという問いであれば良いのではないか。

【●●委員】 この協議会における乗り入れ規制とは、どの様な扱いなのかなど話をしていない段階において、それを問うのはどうなのだろうか。例えば、先ほどの渋滞をする箇所は決まっている為「ここが渋滞する箇所であるが、ここの渋滞を解消するにはどの様な対策を取れば良いと考える」など具体的にした方が、この地域の様々な人の提案を聞くのであれば素直なのではないか。

【●●委員】本来であればそれが正しいのだろう。しかし14ページの前半として一番良いのはもちろん「交差点を改良すべき」や「道路を拡張すべき」などであるが、現状として絵に描いたモチでしか無いと言う前提の中で交通量抑制の問題が出てくる。結論としては、渋滞を解消するには車を減らすしかない。車を減らすか、道路の容量を増やすしか無い。ところが鎌倉市の場合は、道路の容量を増やすことが出来ない。短期的に出来ないと言う前提がある以上は、車を抑制する方法を取らざるを得ない。あるいは、抑制するか平準化するほかは無い。車をどうにかして押さえ込まなければならないという状況はある意味自然であり、現状においてできる事と言うものはそれしか無い。

【●●委員】鎌倉地域への車の乗り入れや走行を制限し、快適な生活うんぬんと言う文章は「鎌倉地域の混雑を抑制するために、走行や乗り入れを制限しようという考え方があるが、このことについてどう考えるか」という問い掛けで良いのではないか。混雑解消はこの委員会の流れである。

【部会長】時間に限りがある為、皆さんのお話を伺った私の案を申し上げてよろしいか。確かに問7から問11までの5問に乗り入れ規制があり、11問中5問というのはかなり重く感じられる。特に問9、10、11は具体的な方法論にまで踏み込んでいるのが、現段階ではまだ踏み込みすぎでは無いかと感じる。先ほどの14ページにて、大きな3つの方針を決めて頂いた。●●委員のおっしゃる通りこれまで3回議論した結果、現在市民に問い掛けるべきはこの3つの方針であると思う。よって、基本はこの3つの方針について、市民の意見を聞くという事を基本としてはどうか。問9、10、11がなくなればその対立も解消するだろう。その上でもう一度同じく14ページの青い箇所にある「交差点を改良する」と言う事は、恐らく絵に描いたモチでありかなりの時間を要する為、検討委員会では少々難しい。よって、当面は抑制する方法から現実的なものにならざるを得ない事も、かなり論理的な帰結としてあり得る。その意味では問7、8くらいは誘導にならないように市民の意見を聞いていくという形でも良いのではないかと考える。

【●●委員】問8は、あまり意味のある質問では無い様に感じる。

【●●委員】問11は残してはどうか。

【●●委員】問7と8は重複している。

【部会長】では問7と11を残し、代わりに14ページの3つの方針を記載するという事でよろしいか。

【委員一同】異議なし。

【事務局】部会長からのご提案を受け修正をした後、次回の検討委員会の前に皆さんに送付させて頂くのでご意見を頂きたい。その様な方法でよろしいか。

【部会長】14ページも修正があった為、そちらについても皆さんに確認をして頂きたい。そして皆さんのご了解を得たものを検討委員会で提案させて頂く。

【事務局】 よろしいか。

【●●委員】 基本的にはよろしいかと思う。だが少々気になるのが問1である。「耐えがたいほど深刻である。即刻手を打つべきである」とある。この聞き方はこれで良いのだろうかと感じる。前回では該当者が37.1%であった。このアンケートは平成7年に実施してから17年間も経過しているのである。再度これを聞き、もしも同じ様な数字が出た場合において、また放っておけるのだろうかと言う事である。この様な強い聞き方でよいのだろうか。

【部会長】 これでは刃は市に向かうだろう。

【●●委員】 実際には、平常時であれ我々商工業者はどうにもならない、耐えがたいほど深刻であるとの情報を耳にしていない。特に特異日など、確かに交通事業者の方は非常に厳しいだろう。しかしこの様な聞き方をした場合は大丈夫なのだろうか心配である。もう少し柔らかい聞き方にすべきではないか。前はその後問いに反映される部分があった為、この様な聞き方をしたのだろう。しかし今回はその様な事は無い為、ここまで強く聞く必要はないのではないか。自分で、自分の首を絞めるだけではないか。

【部会長】 状況が変化しているかどうかのバロメーターにしたいという事で残してあるのだと思う。確かに市の方では「十何年間何もしていないのではないか」との批判が来る可能性がある。これについては、市の方で入れるかどうかのご判断をして頂くという事でよろしいか。市が良いと判断すれば、我々はそれに従う意向である。

【事務局】 ●●委員のご提案になるべく沿える様にしたいと考える。しかしこちらにおいても前回お話しした様に市長の諮問機関である。市長の渋滞を解消しようと言う意向によりこの委員会が発足した。更に、金沢鎌倉線をどうかして欲しいという市民からの要望もかなりある。こちら市長への手紙や、秘書課を通し、何とかして欲しいとの切実な訴えがある為、市長自らがこの委員会を設置したものである。その事だけのご理解を頂きたい。また、先ほどの文言については検討させて頂きたいと思う。

【部会長】 では、4つの議題についてはこれで終了とする。その他について、全体を通して何かご発言はあるか。

【事務局】 もう一つご質問をさせて頂きたい。問15の職業の答え方であるが、前回のこの検討部会ではこの質問で属性が分けられるため、商工業者の方と市民とのサンプルを分ける必要が無いとなった。そのため、商工業者と市民は分類せず1,000票を配布するものとしているが、この分類でその目的が達成されているのかどうかだけご確認頂き、もしも相違があればご意見を頂きたい。

【部会長】 問15であるが、前回はこの区分で行ったということか。通常においては国勢調査の様なものがあるのか。

【事務局】 この様な市民アンケートなどを行う際は、当たり障りのない区分を取っている。

【●●委員】 例えば会社員で市外に通っている人、日常的に市内にいる人、その他に自営業の

中でも自宅でやっている人もいる。その辺りが分かれば良いのではないかと。要は日常生活の中でこの交通問題に耐え難いほどの、深刻な気持ちを抱いている人なのかどうか分かれば良い。

【●●委員】自営業の方では自宅勤務と通勤と言うより、市内と市外とに区分した方が良いのではないかと。

【部会長】問 15 と問 16 をクロスさせれば分かるであろう。

【●●委員】了解した。

【●●委員】鎌倉で商売をしているのか、していないのかという事か。

【●●委員】そうである。それが分かれば良いと思う。

【部会長】店舗の従業員はどこに区分するのか。

【●●委員】会社員の区分となる。

【部会長】では、地域の中で働いている事が分かれば良いと言う事でよろしいか。

【●●委員】日常的にいるのか、休日だけいるのかは把握したい。

【部会長】では、その様にする。特にご発言がなければ、時間超過の為にこれにて閉会とする。

【委員一同】異議なし。

3. その他

【事務局】本日ご議論頂いた鎌倉地域地区交通計画の今後の方向性の修正案については、郵送にて内容を詰め、確認していただいたものを、9月27日の第2回鎌倉市交通計画委員会に諮る事になる。その際、専門部会での検討経過を簡単に●●部会長よりご報告して頂き、事務局より説明する事を考えているがそれでよろしいか。

【委員一同】異議なし。

【事務局】では、その方向で進めさせて頂く。また第4回の専門部会だが、9月の検討委員会後の11月頃予定している為、改めてご通知させて頂くのでよろしくお願いしたい。

以上